

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策1-3-2 情報発信等誘客宣伝活動の強化

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 観光振興課長 藤井 洋一 電話番号 0852-22-6257

事務事業の名称	広域的観光客誘致推進事業
目的	(1) 対象 観光客及び観光送客に関連する事業者 (2) 意図 島根県の観光情報の露出度を高め、来訪を促すために有効な手段を講じることで、より長く当地に滞在してもらう
事業概要	【山陰路観光キャンペーン事業】山陰地区への観光客来訪と周遊を促すため、山陰観光連盟山陰路部会に負担金を支出し、共同キャンペーンを実施する。 【山陰観光連盟事業】山陰地区への観光客の来訪と周遊を促すため、山陰観光連盟に負担金を支出し、キャンペーン事業を展開する。 【他県等広域共同事業】島根県への観光客来訪と周遊を促すため、(公社)日本観光振興協会に対して負担金を拠出する。 【ディスカバーウエスト連携協議会事務】中国5県における広域的な誘客事業を推進するため、中国5県とJＲ西日本とで構成する協議会へ負担金を支出し、共同で情報発信事業等を展開する。

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	観光入り込み客延べ数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		29,700	29,500	29,300	30,000	
式・定義	毎年の観光動態調査結果	実績値	27,489	29,188	36,819	33,207			
		達成率		98.30	124.80	113.40			%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義	実績値	0.00	0.00	0.00					
	達成率		0.00	0.00				%	

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b)(千円)	8,227	8,227
うち一般財源(千円)	8,227	8,227

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基いた現状）

【山陰路観光キャンペーン事業】【山陰観光連盟事業】  
山陰観光連盟と連携して、冬の山陰への誘客キャンペーンを実施。プレゼントキャンペーンのパンフレット作成（6万部）、ノベルティの作成、JＲ各駅へのポスター掲示などを行った。これにより京阪神へのPRの強化が図られ、冬のキャンペーンでは約1,600人からプレゼントへの応募があった。また、京阪神発の特別切符「山陰めぐりキップ」について、1000円分の商品券を付与する特典整備を行った。  
【ディスカバーウエスト連携協議会】  
JＲ西日本及び中国5県で連携して着地旅行商品の整備及び、東京、名古屋、大阪、福岡において観光素材説明会を実施した。また、九州からの誘客を促進するため、熊本での説明会及び鹿児島でのマスコミ訪問を実施した。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

【全体】  
他県と連携した広域的な誘客宣伝や、JＲ西日本との連携による旅行会社に対する旅行商品造成の働きかけなど、効果的に事業を実施した。また、JＲとの共同事業により、旅行会社大手各社に対して山陰への旅行商品造成を積極的に働きかけた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」  
【全体】  
H26年の県全体の観光入り込み客数はH25年より減少し、石見地域においてはH25年以前から減少傾向、隠岐地域も横ばい傾向にある。
- ②困っている状況が発生している「原因」  
【全体】  
島根県及び島根県を含む広域的な地域観光において、県外からの観光客をひきつける観光素材及び魅力のPRが充分ではない。
- ③原因を解消するための「課題」  
【全体】  
隣接県や関連団体と連携し、島根の観光情報発信、魅力のPRを強化する必要がある。併せて、隣接県と周遊してもらえるような仕組みづくりや旅行会社へ広域周遊の旅行商品造成を積極的に働きかけていく必要がある。  
併せて、山陰や中国5県の観光地を観光客が効率的に周遊できるよう、随時、的確な観光情報を入手できるような施策を講じ、観光客の満足度を高めていく必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

【全体】  
山陰路観光キャンペーン事業における山陰路部会では新たに訪日外国人の誘客に向けた取り組みを行う他、ディスカバーウエスト連携事業において首都圏や東海地区、九州地区の旅行各社に対して旅行商品造成の働きかけを強めるなど、引き続き隣接県や関連団体と連携した情報発信、誘客促進に向けた取り組みを実施していく。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）